

- 1 日 時 令和元年（2019年）5月24日（金）14時00分～15時30分
- 2 場 所 筑波西中学校 体育館
- 3 出席者 都市計画部 部長、次長
公有地利活用推進課 課長、課長補佐、係長、係員3名
茨城県 産業戦略部技術革新課 課長 課員1名
学校法人 校長、事務局長、運営統括次長、事務部長
- 4 参加者 32名

5 内 容

(1) 説明内容

筑波西中学校跡地利活用（案）について、別紙説明会資料を用いて説明した。

(2) 質疑・意見交換（○：市、●：参加者、△事業者）

- 年間の授業料はどれくらいか？奨学金制度はあるのか。
 - △既存校の場合、初年度は入学金を含め25万円程度、2年次からは24万円程度となるが、筑波西中に開設する学校は、教育内容等により変更が生じる可能性はある。また、高等学校就学支援金制度として授業料の半額程度の支援を受けることができる。なお、単位認定外のプログラムやプログラミング等も授業料に含まれている。
 - 奨学金は希望すれば支援を受けられるのか。
 - △奨学金は国が実施する制度のため、全国一律となる。年収等により適用されない生徒もいる。
- 教育費は近隣周辺の高校と比較するとどの程度か？スクーリング時の料金は別に負担することになるのか。
 - △教育費は、既存の高校と比較すると、同等、あるいはそれ以下となるのではないかと考えている。スクーリング時の交通費は各自で負担することとなる。
 - 筑波西中に開設した場合、生徒数は何万人くらいとなる見込みか。
 - △既存校の生徒数は、現在10,399人で1万人を超えるまでに4年かかっている。1年目で1万人の生徒が入学することはないと思うが、同じペースで生徒が来るのではないかと考えている。その先、将来的にどれくらいの生徒が来るかは申し上げられないところもあるが、ひろく受け入れていきたいと考えている。

- 既存校が増えるのか。同学校法人が新たな学校を設置するのか。
 - △筑波西中を利用して学校を開設することを検討しているが、それが既存校の分校となるのか新規の高校となるかは検討中であり、県や市とも相談しながら進めていきたいと考えている。そのため現段階では名称も決まっていない。
- 定員は何人くらいを予定しているか。
 - △既存校と同程度かと思うが、県や市と相談して決めていきたい。
- 筑波西中に教職員は常駐するのか。常駐する場合は何人くらいか。
 - △教職員及び事務職員が常駐する。人数は生徒数に応じて増やしていくので申し上げられないが、既存校は教員だけで118名程度いる。
- 土地賃貸借契約期間はどの程度を考えているのか。
 - 市の財産を貸し付ける場合には規定にのっとり、最大5年間であるが、長く続けていくことも大切なのでなるべく期間をとって検討していきたい。
- 長い期間使用していただけると有り難い。
- どのような生徒が対象となるのか。社会人も対象となるのか。また、資料に主体的に選択する学生が多いとの記載があるが、具体的に説明してほしい。
 - △募集する生徒は既存校と変わらず、高校への就学対象となる生徒と考えている。プログラミングを行う生徒もいるが、英数国理社を一生懸命行う生徒もあり、幅広い生徒を受入れられるのが特色である。
- 宿泊施設は近くにないが、スクーリング時はどこに泊まって、どのように通うのか。また、市街化調整区域のため開発は考えていないということで良いか。
 - △既存校も近隣にホテルがあるわけではなく、学校までバスで移動している。筑波西中でも地域のバス会社と連携することとなる。開発については、学校運営以外は考えていない。
- とても良いと思う。私も入りたい。一度に1万人が通うことになるのか。
 - △一度ではない。
- 筑波東中や田水山小も視察していると思うが、それらも視野に入っているのか。
 - △施設を拝見させていただいて、現在は筑波西中を利活用したいと考えている。

- 学校開放事業は継続して実施していただけると伺っているが大丈夫か。市長杯を筑波西中で実施し、好評であったため、各種大会を筑波西中で実施したいと考えている。新設学校が弁当をお願いする業者に我々も便乗してお願いすることは可能か。
- 学校開放事業は、市からのお願いとして、学園が筑波西中を活用する際にも協力していただきたいということでお願いしている。
弁当は受けていただける業者にもよると思うが、依頼したお店の情報なら提供はできると思う。
- △学校開放事業は協力する方向で考えている。学校運営上、生徒が来ているとき等は、調整させていただきたい。既存校も老人会のグラウンドゴルフで使用したりしており、できる限り協力したい。弁当は逆に情報をお持ちであれば提供していただきたい。先ほどの契約年数の話もあったが5年で事業を辞めることはありえなく、地域と協力して学校を運営していきたい。また、地域の避難場所指定も協力させていただく。
- 筑波西中を開設した際に、毎週150～200名の生徒が来るという計算過程が分からないので説明をお願いしたい。
- △既存校の収容定員数が2万人で、3年間に一回は必ず本校に通うことになるため、定員の3分の1である6千名が1年間の間に本校に通い、その他の生徒は他の会場でスクーリングを受けるという計算をしている。生徒の予測数と既存校の現状とを照らして算出した数字となる。
- スクーリングを受けられる場所は何か所もあるのか。
- △既存校のほか、北海道、東京、大阪、名古屋、福岡、広島、新潟にスクーリングとして使える会場がある。常時使用できる会場は既存校のみで、ほかの会場は間借りしている状況である。
- 以前、空港において、髪の色がオレンジや茶色等の30人くらいの若い世代が屋久島行きの飛行機を待っており、話かけたら、スクーリングということであった。話をしてみると普通の高校生で若くて良いなと感じた。筑波地区に高校生が来ても何も心配する必要はないと思う。筑波西中に学校を開設した際には、沢山の高校生が来て活気が出て良いと思う。楽しみにしている。
- △そういった子どもたちを認めることにより、素直に色々なことに挑戦してくれるようになる。そういう場所を造りたいと考えている。居場所探しをしている子どもたちはたくさんいる。

●毎日通学することはできるのか。

→△既存校本校へは毎日通学できないが、東京や大阪に通学できるキャンパスはある。筑波西中に開設する高校については、今後検討していきたい。

以 上